

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
3年前期	3	3	選択
担当教員			
田井 幹夫・金子 敦史・長谷川 寛			
添付ファイル			
講義概要			
建築設計・A2の小規模公共施設（あたらしい図書館）に引き続き、前半では街中で「町家のリノベーション」を計画する。市街地（掛川）のコンテクストの読み取り、既存建物を注意深く調査し分析する。集まって住む事、共有の仕事をもちて社会と繋がることなどを考える事で、新たな家族像、働く事と社会性などについて学び取る。後半では「風景と共にあるアートセンター」を設計する。遠州という地域性を理解し、風景、産業、文化に根付いたコミュニティを再生させるためのアートセンター（音楽ホール、アートギャラリー、演劇ホール等）を計画する。遠州の市街地ではない郊外において、地域コミュニティの今後のあり方を検討し、文化的なプログラムを利用しつつ、再生をもたらすあらたな空間モデルを生み出す力を習得する。 成果物：配置図、平面図、立面図、断面図。 パース、スケッチなど空間を示すドローイング。 断面詳細図、部分詳細図。 模型。 この科目は、建築設計分野の実務経験のある教員が担当する科目である。			
授業計画			
1 「町家のリノベーション #1」 講師紹介、課題説明、グループ分け、レクチャー ・非常勤講師によるミニレクチャー ・ミニレクチャー「リノベーションについて」 ・ミニレクチャー「町家について」 ・建築設計・A2からの流れ、本課題の位置づけの説明 ・課題説明 ・レクチャーはAL1 準備学習：1) 集合住宅の基本を理解する 2) 新たな住まい方、働き方について考察する 課題：1) 敷地調査 2) 敷地模型作成 3) 家族像、住まい方、働き方の検討、決定 2 「町家のリノベーション #2」 エスキスチェック 1 （敷地リサーチ発表、プログラム、住人設定、仕事場の設定発表） ・敷地リサーチ発表 ・プログラム（住人設定、仕事場）発表 ・敷地模型提示 ・エスキスチェック、発表はAL1, AL3, AL4 準備学習：1) 敷地について理解を深める 2) 計画内容についてプログラムを深く考える 課題：1) 住まい方、働き方のダイアグラム作成 2) 配置計画のラフスケッチ 3) 平面計画のラフスケッチ 4) 断面計画のラフスケッチ 5) ラフ模型 3 「町家のリノベーション #3」 エスキスチェック 2（ボリュームスタディ、住まい方、働き方ダイアグラム） ・ダイアグラムの発表 ・平面スケッチ発表 ・断面スケッチ発表 ・模型による空間構成の発表 ・エスキスチェック、発表はAL1, AL3, AL4 準備学習：1) 平面計画の再確認 2) 断面計画の再確認 3) コンセプト、ストーリー、プログラムと建築の計画の整合性の確認 課題：1) 計画全体の再確認 2) 模型作成 3) 中間発表に向けてのプレゼンテーション 4 「町家のリノベーション #4」 中間発表（全員発表） ・計画全体についてラフな図面、模型にて発表する。 ・エスキスチェック、発表はAL1, AL3, AL4 準備学習：1) 他の人の発表から足りない部分を確認する 2) 講評で出たアドバイスを反映させる 3) 不十分な作業内容を確認 課題：1) コンセプト、ストーリーをブラッシュアップ 2) 平面断面など計画自体をブラッシュアップ			

5	「町家のリノベーション #5」 エスキスチェック（全体計画、コンセプト、プログラムの見直し） ・ 中間発表での改善点の洗い出し箇所発表 ・ 計画の改善部分の発表 ・ エスキスチェック、発表はAL1, AL3, AL4 準備学習：1) 完成度の確認 2) 全体を俯瞰する 課題：1) プレゼンパネルのレイアウト検討 2) 最終模型の表現方法、精度などの確認
6	「町家のリノベーション #6」 プレ講評会(最終まとめ、プレゼンテーション方法) ・ 各グループ内での発表 ・ エスキスチェック、発表はAL1, AL3, AL4 準備学習：1) 計画全体についての整合性の確認 2) 発表の説得力の確認 3) 不足図面、模型の確認 課題：1) 最終成果物の作成（模型、図面）
7	「町家のリノベーション #7」 最終講評会 最終講評会 ・ 全員の作品の閲覧 ・ 学生同士での評価 ・ セレクト作品について全体発表 ・ エスキスチェック、発表はAL1, AL3, AL4 ・ 第2課題のプレ説明 課題：出身校についてのリサーチ
8	「風景と共にあるアートセンター1」 課題説明、事例紹介レクチャー ・ 課題説明 ・ レクチャー（アート関連施設） ・ レクチャー（ランドスケープと建築） ・ 出身学校について発表 ・ エスキスチェック、発表はAL1, AL3, AL4 準備学習：1) 様々なアートセンターの在り方を認知する 2) アートを介したまちづくりについて考察する 課題：1) 敷地調査 2) 地域のコミュニティ、人口動態等について調査 3) 同規模のアート関連施設事例についてリサーチ 4) 敷地模型
9	「風景と共にあるアートセンター2」 エスキスチェック 1（ベースコンセプト、地域のリサーチ結果、配置、ボリューム） ・ 敷地調査発表 ・ 事例調査発表 ・ 敷地模型発表 ・ エスキスチェック、発表はAL1, AL3, AL4 準備学習：1) 敷地についての理解を深める 2) アートセンターの可能性を考察する 課題：1) コンセプト、ストーリーの構築 2) プログラム、+αの機能の検討 3) あたらしい公共施設の概念の構築 4) 配置、平面計画の検討 5) 敷地模型にボリューム模型を配置
10	「風景と共にあるアートセンター3」 エスキスチェック 2（プログラム、ボリューム、配置など） ・ コンセプト、ストーリーの発表 ・ プログラム、+αの機能の発表 ・ ボリューム模型発表 ・ 配置計画発表 ・ エスキスチェック、発表はAL1, AL3, AL4 準備学習：1) 計画建物のベースコンセプトの構築 2) 建物の配置の可能性を把握する 3) 地域へ貢献するアートセンターの在り方の提案 課題：1) 平面計画の再検討 2) 断面計画の検討 3) コンセプト模型の作成 4) 模型による空間構成の検討 5) 中間発表のプレゼンテーション

	11 「風景と共にあるアートセンター4」 中間発表（2グループごとに全員発表） ・計画全体についてラフな図面、模型にて発表する。 ・エスキスチェック、発表はAL1, AL3, AL4 準備学習：1) 他の人の発表から足りない部分を確認する 2) 講評で出たアドバイスを反映させる 3) 不十分な作業内容を確認 課題：1) コンセプト、ストーリーをブラッシュアップ 2) 平面断面など計画自体をブラッシュアップ 12 「風景と共にあるアートセンター5」 エスキスチェック 3（全体計画、コンセプト、プログラムの見直し） ・中間発表での改善点の洗い出し箇所発表 ・計画の改善部分の発表 ・エスキスチェック、発表はAL1, AL3, AL4 準備学習：1) 計画内容の再確認 2) 不足作業の確認 課題：1) 平面計画、断面計画の充実 2) 最終模型の表現方法、精度などの確認 3) 各部詳細設計 13 「風景と共にあるアートセンター6」 エスキスチェック 4（全体計画、コンセプト、プログラムの見直し） ・中間発表での改善点の洗い出し箇所発表 ・計画の改善部分の発表 ・エスキスチェック、発表はAL1, AL3, AL4 準備学習：1) 完成度の確認 2) 全体を俯瞰する 課題：1) プレゼンパネルのレイアウト検討 2) 最終模型の表現方法、精度などの確認 14 「風景と共にあるアートセンター7」 プレ講評会 ・各グループ内での発表 ・エスキスチェック、発表はAL1, AL3, AL4 準備学習：1) 計画全体についての整合性の確認 2) 発表の説得力の確認 3) 不足図面、模型の確認 課題：1) 最終成果物の作成（模型、図面） 15 「風景と共にあるアートセンター8」 最終講評会 ・全員の作品の閲覧 ・学生同士での評価 ・セレクト作品について全体発表 ・エスキスチェック、発表はAL1, AL3, AL4
授業形態	グループごとに対面式、エスキスチェック。発表は合同。模型、スケッチ、プレゼンテーションパネルによる。 アクティブラーニング：①:15 回, ②:0 回, ③:14 回, ④:14 回, ⑤:0回, ⑥:0 回
達成目標	設計について以下の項目について習得する。 1. 共同作業すを通じて一つの目標に向かって、協力して良いものを生み出すコミュニケーション力。 2. コンセプト、ストーリーの空間化。 3. 敷地の読み取り。 4. 配置計画、平面計画、断面計画、立面計画。 5. 建築の公共性（都市空間において）。 6. あらたな都市生活の可能性。
評価方法・フィードバック	プレゼンテーションパネル（ドローイング）、模型などの内容、完成度。プレゼンテーションおよび質疑応答。一部、出席状況。原則として、課題等のフィードバックは次回以降の授業内で実施する。
評価基準	講評会における採点。秀100～90、優89～80、良79～70、可69～60、不可59以下。但し、前半、後半課題とも中間発表、最終公表会への未提出者、欠席者は不可となるので注意のこと。
教科書・参考書	参考書：日本建築学会「建築設計資料集成」、山本理顕＋α「地域社会圏モデル」「地域社会圏主義」INAX出版、小嶋一浩「アクティビティを設計せよ!」、工藤和美「学校をつくろう!」、上野淳「学校建築ルネサンス」、長澤悟・中村勉「スクール・レボリューション」、渡辺真理＋木下庸子「集合住宅をユニットから考える」新建築者、渡辺真理＋下吹越武人「小さなコミュニティ」彰国社
履修条件	なし
履修上の注意	毎回のエスキスチェックにおいて必ずスケッチ、模型など成果物を持参する事。締切日時は厳守とする。
準備学習と課題の内容	課題に応じて、関連図書、建築雑誌の購読を勧める。 設計は日常的な思考と作業の蓄積が重要である。課題進行中は継続的に作業を続け、毎週のエスキスチェックを到達点の目安とすると良い。（毎回、予習復習それぞれ1.5時間程度）
ディプロマポリシーとの関連割合（必須）	知識・理解：20％, 思考・判断：30％, 関心・意欲：15％, 態度：15％, 技能・表現：20％

DP1 知識・理解	
DP2 思考判断	
DP3 関心意欲	
DP4 態度	
DP5 技能・表現	